

久慈町ゴルフ場問題関連

『いはらき』新聞記事

〔凡例〕句読点はそのまま、ふりがなはすべてはずした。「」内は編者註

一九三五年（昭和十）三月二日付

日立製作更に 大甕に廿萬坪

ゴルフ場設置か

インフレ景氣で異状の發展を示せる日立製作所では助川驛前なる宏大な海岸工場敷地も既に狹隘を告げ更に大甕驛前なる畑地二十萬坪を買収すべく目下畫策中であるが一説には茲に大ゴルフ場を設けるものともいはれる

一九三五年（昭和十）三月二十一日付

敷地買収價格 製作所側と折衝

久慈町の各町委員が

日立製作所では久慈郡太甕神社前の耕地約十八萬坪を買収し分工場を設置すべく交渉し事は既報の如くであるが、十九日午後二時から五來町長は關係地

主三百餘名會合を求めこれが對策を協議した結果、各町から左の如く三名づゝの實行委員を擧げ二十日午後二時から協議を開いた上製作所側と正式交渉をする事になつた會社側では反當り百八十圓を希望してゐるに對し久慈町では二百圓以上を希望してゐる

五來瀬平、荒川友重、佐藤幸三郎、渡邊吉郎平、根本松太郎、額賀淺太郎、田所午吉、荒川豊、渡邊善八、荒川正、同利三郎、三代万吉、渡邊巳之太郎、飛田重太、出野亀一

一九三五年四月六日付

久慈町に工場 日立製作所で新

設 廿萬坪買収交渉 鮎川日産

社長語る

倍額増資する日立製作所では久慈町地内十八萬坪の土地買収交渉中であるが、右に對して鮎川日産社長は左の通り語つた、

目下久慈町に十八萬坪並に別口二萬坪買収交渉を行つて居るのは事實で

ある、自分は未だ右賣買収交渉が纏つたかどうかは聞いて居ない、この用地を如何なる工場に使ふかは云へないが子會社で工場を建ることゝなつて居る

尚同社の下河邊專務は、

右用地買収に關しては聞いて居ないが二三萬坪の土地は従業員運動場にするのではないかと語つた

一九三五年四月十二日付

製作所久慈工場 敷地買収決ま

る 六月頃から工事着手

日立製作所では、新工場を建設すべく既報の如く久慈町地内畑地十八萬坪の買収交渉中であつたが反當り二百圓で纏まつたので十一日から測量を開始し六月頃より工事に着手する筈である。

一九三五年四月十五日付

五月末までに 土地買収を完了

製作所久慈工場敷地

日立製作所分工場豫定敷地として久慈

町地内大甕驛前國道に沿ふて十九萬坪を選定した事は既報の如くであるが、その後地元久慈町では主として五來「要之助」町長幹旋の下に荒川龍次氏外三百三名の地主會を開いて諒解を求め高島製作所庶務課長と折衝の結果反當り二百圓平均を以て買取の契約成立した、即ち土地買取交渉委員として

荒川友重、同正、三代萬吉、額賀淺太郎、田所午吉、荒川豊、渡邊善八、出野亀一、巳之太郎、飛田重太、佐藤幸三郎、五來瀨平、根本松太郎、渡邊吉郎平、荒川利三郎

の十五名を擧げ五月末日まへには完了の豫定であるが敷地十九萬坪の内久慈町分は畑地十七萬五千坪で耕作せる麥作地主において收穫後は絶對播種せざること、大甕神社の久慈濱よりの參宮道路は工場敷地内に織込まれた關係上製作所側において南寄りの里道を最小限度幅五間乃至七間に改修參道とするの契約全く成り、麥作刈り取りと同時に直に事業に着手し年内には一、二工

場の建築を見るに至るであらうと言はれてゐるから實現の暁には地元町村は勿論経済的に隣接町村太田町方面まで恩恵に浴することゝなる

一九三五年八月二十五日付

十萬坪買取問題で 日立、助川

兩町果然緊張

日立製作所海岸工場の大擴張に伴ふ工場敷地十萬坪買取に關する助川町の協議會は夕刊所報の如くであるが會社の方針としては助川町會瀨地内の外更に大甕及び日立町宮田下の海岸に面する地區をも内内調査中で早くもこれを察知した隣接町村中には秘密裡に手を伸ばし工場敷地の奪取運動に腐心し國分村河原子町の如きは協力して下孫驛に接近する國分村地内の「八反原」を提供すべく大窪國分村長は鈴木河原子町助役と今回日立製作所に高島庶務課長を訪問し、國分河原子兩町村の熱意ある處を披瀝してをり、一方久慈町、及び坂上水木方面においても、曩に買取

に應じた大甕地内の接續地の幹旋に盡力すべく申込んでゐると傳へられ、地元日立、助川町が歴史ある日立工場を他町村へ假りにも奪取さるゝが如きことがあつては町の面目にも關する問題であると當局は勿論有志連もこれが對策については眞剣に考究中である

一九三五年十月二十八日付

知事に嘆願書提出 久慈町の地

主代表出縣

製作所の交渉に應じ土地を賣つたが價額が安過ぎたと増額運動に起つた久慈町の地主代表渡邊吉郎平外十氏は二十七日出縣折柄縣會へ列席中の島津、菊池(信)、齋藤三縣議に面會の上縣議等の幹旋により林知事と會見嘆願書を提出し縣盡力を依頼して引上げた

一九三六年三月十五日付

署員嚴戒裡に 久慈町會流會

次回は十七日に招集

事毎に抗爭紛擾を重ねてゐる久慈町で

は十一年度豫算案經常費四萬五千五百八十七圓臨時費三萬七千四十一圓合計七萬八千六百九十八圓の豫算町會を開くに先立ち非役場派の領袖と目されてゐる宇佐美、五來兩町議は曩に町理事者の斡旋で日立製作所に提供したる土地買収問題に絡んで緊急動議を提出し五來町長不信任案をも出すまじき形勢に陥り議事の進行全く停頓するに至つたので止むなく閉會を宣し、十三日午後二時再會したが、定員にみたざるため遂に流會に了つたので十七日再招集を行ふ段取となつてゐるが抗爭の焦點は地方發展のために策したものでその間何等の私心がない彼等は反對せんがためのいはゆる反對であると述べてゐるに反し非役場派側は賣買價格に對する町長の不誠意を攻撃し町長排撃の聲を高唱してゐるので太田署では十三日の町會には萬一を慮り江口司法主任は木内仁平兩部長と共に同町に出張久慈部長派出所員數名を従へ役場應接間に陣取り待機の姿勢と警戒の任に當つた

一九三六年三月十八日付

前回に續いて 混亂の久慈町會

役場派議員で豫算議決

町長問題を中心に紛糾してゐる久慈町豫算町會はさる八日開會したが役場側の町政運用に絶對反對する非役場派議員十一名は既報の如く曩に同町が日立製作所に賣却した畑地十八萬坪を反當り二百圓で賣却したるは言語同斷の安値で、四百圓見當で賣買し得る可能性充分である、その間不純の何者かゞ秘そんではゐないか、地主に對し餘りも不誠意の限りであると町民に對し忸怩たるものなきかと猛烈なる難詰を續けて九日に續會したが又々喧々囂々裡に散會、十三日開會したが依然として論争に終り何時果てるとも見えぬ混沌たる險惡なる空氣の重壓下に十七日最後の町會が開かれた、太田署からは福田警部補以下警官十四名物々しい嚴戒裡に午後二時廿分開會傍聽人も雲集した先づ劈頭町民五來要之介氏は過激なる暴言が飛び議事録を染むるは本町會の

不名譽も甚だしい、然して本町の名譽のためにも至誠を盡して貰ひたい、尚土地問題に不謹慎なる言辭を弄した宇佐美松兵衛、五來新五衛門、宇佐美半次郎氏に失言取消しを要求すると攻めたがために、十一名の議員は「何故の取消しだ」と立ち上るや議長は今更説明の要なし、既に承知の筈と突つばね續いて取消しを要求したが、「必要なし」と罵聲が飛ぶや議長は取消さねば退場を命ずるぞと威嚇したので退場とは何事ぞ、議長を忌避すると喰つて蒐り、議長は騒然遂に議長は官憲に三名の退場を要求したのであはや流血の慘を見るかと思はれたが宇佐美松兵衛氏等の首頭で退場々々の聲にドヤドヤと足音も荒々しく、議長の亂暴を怒號し官憲の壓迫を呪咀して退場、出縣一切を請願すると水戸市に向つたが、残りの役場派議員七名は我が意を得たりの格好で一瀉千里本年度豫算七萬八千六百九十八圓、前年度より一萬四千五百廿七圓減を可決し僅四十分で閉會した

が將來の成行は一層憂慮されるに到つた、町民は兎に角喧嘩兩成敗の意味で樹て直しの上は明朗久慈濱を建設すべしと叫んでゐるが、數年來の癩であるだけに困難な理想論に過ぎないと見られてゐる尚議員の色別左の如し

○役場派議員 川崎丑松、五來光顯、川上福次郎、渡邊光雄、青山松吉、高野菊之介

○非役場派 三代子之松、田所初太郎、西野半五郎、宇佐美松兵衛、渡邊達一、五來新五衛門、宇佐美義、宇佐美半次郎

一九三六年三月十八日付

久慈町議十一名 町長横暴を訴ふ 昨日出縣して陳情

久慈町々議五來新五衛門氏外十名は十七日午後出縣坂本地方課長八田警察部長に面接し町長五來要之助氏の横暴を訴へ公平なる取扱ひを願ひたいと陳情した、五來町議等十一名は非役場派に属し同町大壘地内の土地六十町歩を五

來町長が日立製作所に斡旋するに際し最初反當り二百圓でやつたのをこれに反對したものは四百圓で斡旋したの是不都合だとさる七日の町會で五來町長に詰め寄つたところ十七日の町會には非役場派議員に陳謝を要求これに應ぜざるため警察官の出動を求め非役場議員に退場を命じたといふことからこの陳情となつたのだがその間には數年來の感情問題が引き掛かつており解決は容易ではなくこの問題を中心とし今後相當波瀾を豫想され成り行きを注視されてゐる

一九三六年四月一日付

久慈町長彈劾 非役場派議員出縣して陳情

日立製作所がゴルフ場新設のため久慈町地内の土地買収に端を發した久慈町會の紛争は未解決の儘豫算その他を議決するに至つたが非役場派對日立製作所の問題も未解決の儘となつてをり目下大内竹之助、鈴木剛次郎兩縣議が調

停に立ち斡旋につとめてゐる、一方非役場派議員十一名は飽まで町會議員の退場を命じ發言權を侵害した五來町長の不法行爲を糾彈すべく卅一日出縣地方課に對して陳情した

一九三六年五月二日付

社説 工場敷地の買収問題

軍需インフレ豫算施行の波に乗つて驚異的な景氣に恵まれてゐる日立製作所は漸次膨張する工場建設のため敷地買収の必要を生じ、附近各町村住民と交渉を開始してゐるようであるが、この問題は當該地方の遠い將來のため相當慎重に研究せねばならないと思ふ。

この場合日立製作所が膨張するといふ事は、單に一私立會社の業務が旺になつたと見るだけでは當を得てをらない。なぜならば国策遂行上必要なものを製作する機能が拡張されるのは、總て吾が帝國の雄飛を物語るものであるからだ。資本主義發達の當然の順序として往年の如くその利益が他に分散し

ないまでも、吾等は國策遂行の立場からこの種事業は大いに援助せねばならぬ義務がある。故に工場敷地買収に対しては、出来るだけ地方民が法外な主張をせぬやう導かねばならないとは吾等も亦常に考へてゐるところなのである。

殊に當該地方中小商工業者としては左迄恵まれてゐないにしても過剰人口はそれだけ工場に吸収されて、他の地方小都市や農村とは比較にならぬ程恵まれてゐるのであるから、この點は製作所並に鑛山に対し感謝すべきであるが、さて當該地方永遠のことを考へると、輕々に應ずることも出来ず、結局地方民として去就に迷ふてゐるといふのがその真相であらうと推察せられる。

吾等は茲に耕地が工事でなくなつた場合の一例を挙げたい。それは肥沃なる土地を有する九州筑豊炭田地方の場合であるが、この地方では曾て炭坑があつたため發展に次ぐ發展をしてゐたのが、一朝廢坑になつたその跡に唯鐵

屑や石炭かすのみが散亂せる荒地が殘され、現在全く住むを得ないまでになつてゐる土地が散在してゐることを現實の悲惨極まる現象として見遁す譯には行かない。

工場は炭坑とは異ふからその生命に特に限度はない。いつまでも繁榮すべきものであるかも知れない。又當該地方民も吾等も製作所永遠の繁榮を望んでやまないが、若し萬一にもこの限度があつたとしたならばその土地を復た元の耕地に復すことが出来るであらうか、それは殆ど出来ないと思ねばならぬ。出来ないとしたならば耕地としての永遠の生命は、工場と化したその瞬間において全く失はれたものとせねばならぬ。

併しながら人の生命は、唯農民として立つ事のみによつて繋かれるとは限らない。商業、工業その他幾らでも途があり、殊に彼の地方においては漁業者としても立つことが出来るのである。故に將來立つ事の出来る目算を早急に

講じて徒らに問題を紛糾せしめざるやうすべきであり、又國策的見地からも多少の犠牲は忍ばねばなるまい。されどこれに應ずる時は、唯目前の事のみ考へず、永遠の方途をよく考へて然る後當らねば悔いを後にのこす惧なしとしない。故に本問題は慎重の上にも慎重を期して解決すべきであり、決して經々に扱つてはならない事を茲に重ねて力説して置く。

一九三六年七月九日付

竣工近き 大甕ゴルフ場 新名

所が一つ増す

日立製作所がこの程常磐線大甕附近高臺に買収した約十八萬坪の土地は飛びかふ種々のデマの中にゴルフ場としての施設を備へつゝあつたところ大体完成に近づき遅れも八月中には竣工の運びになつたがクラブ用の舍屋も来る十日頃完成する豫定でこれが出来上がつた曉は先年問題の中に閉場した富士山麓沼津のゴルフ・リンクにかはるゴル

フ場として中央在住ゴルフアー達も
續々垂り込む模様であり、同地方は草
深い田園風景から一躍流行のトップを
切る絢爛たるゴルフダムを現出し本縣
名所に新しい一つを加へることになつ
た

一九三六年十月十一日付

日立ゴルフ場開き けふ盛大に

挙行

日立ゴルフ倶楽部では既報の如く十一
日午前九時半から安藤知事を始め日本
鉱業の伊藤文吉社長、小平日立製作所
社長その他東京、縣内各地の會員有志
多數參列の下に開場式を挙行、先づ宮
田神官に依る清祓の式を挙げ小平理事
長の挨拶安藤知事外來賓多數の祝辞あ
つて祝宴を催し閉會後各會員の競技が
行われる筈

一九三六年十月十一日付

ゴルフ場 また、開場式異變

賣らぬ地主等頑張る

日立製作所では本年度春以来久慈町大
甕原ゴルフ場敷地買収を開始し二十數
萬円を投じて十八万坪を買収して周圍
三、四里に金網を張繞らし別面所報の
如く今十一日午前十時から安藤知事以
下縣内多數名士を招待、安藤知事の始
球式に依り盛大な開場式を舉行するた
め萬般の準備を整へたが十八コース中
最も重要なコース三ヶ所に突如十日
午後五時半頃水戸市仲町辨護士増田弘
那珂郡石神村根本秀之介、久慈町町議
五來新五衛門、同宇佐美松兵衛、同宇
佐美半次郎、太田區裁判所執達吏代理
介川捨吉外數名並に人夫十數人が現れ
立札數本を立て、立入禁止を行ひ合計
四千坪の周圍に棒杭を打立て太い針金
を張繞らした、日立製作所側ではこの
突發的な立禁に極度に狼狽したが最早
開場式延期の通知も出来ず呆然自失の
有様であるが十一日は右四千坪の不買

め双方人夫間と抗争が行はれるものと
見なされ太田署では署員總動員で警戒
するがその成行は頗る注目されてゐる

一九三六年十月十二日付

有志の鎮撫で“先づ無事” 大
甕ゴルフ開場式

(別面所報) 大甕原ゴルフ場開きは別
面所報の如く行われた不賣土地の小作
人等がこの日肥料を運搬施肥するとい
きまいたが久慈町々議宇佐美松兵衛、
五來新五衛門外數名の有志の鎮撫によ
り中止したのと大甕神社參道を通行す
る民衆が日立製作所側で派遣した守衛
にさへざられ小競合を演じたのみで無
事午後四時終了した

一九三六年十月十二日付

日鑛社長の始球 日立ゴルフ場
開き

縣下に誇る大甕原の原に新設された日
立ゴルフ場開きは一部ルールを變更し
十一日午前九時半クラブハウス前にお

いて安藤知事を始め、山本總務部長、生悦住警察部長、龜山常陽銀行頭取、小平日立製作所社長、伊藤日鑛社長その他地方有志の外會社關係有志等三百餘名參列の下に挙行された、これより先クラブコース前の祭壇において宮田神官により莊嚴なる清祓式を擧げ後、小平理事長の挨拶に次いで安藤知事を始め龜山常銀頭取、五來久慈、森山坂上兩町村長等の祝辞があり、馬場副理事長は謝辞を述べ引つゞき祝宴を催し同十一時緑の芝生も濃かな約二十萬坪の地域を利用した斬新なホールにおいて伊藤日鑛社長の鮮やかなる始球式に次いで各會員の競技が行はれた

一九三七年六月六日付

大甕ゴルフ場の不賣地問題再燃
“ 大事な土地を遊戯場に出來るか ” 久慈町・反撃を決議

日立製作所が一年有餘の長時日を費し廿萬圓の巨費を投じて久慈町の大甕原約十八萬坪を買収設置した問題のゴル

フリンクスは今なほ「工場建設の敷地ならば無償で喜んで寄附するが有閑階級の遊戯場では絶対反對である」として買収に應じない土地が一町三反歩餘あるので日製側では必死となつてこれが買収を完了せんとし山本縣總務部長を動かし調停策の樹立を急いだ結果日製の譲歩によつて近く調停が成立するかに見られたが過般來俄然形勢は一變し近く久慈町會では日製側に對して「町道を勝手にゴルフ場用地に使用してゐるのは怪しからぬ」として決議の上猛然反撃を開始する一方場内の不賣地内に避暑用の宏大な別荘を建築することゝなつた、これを聞いた日製側では愕然色を失つて大狼狽し山本總務部長に泣きつくものゝ如くで極秘裡に買収工作促進に乗出したが、過般の町議改選後の同町は十對七で元の町民派が絶対優勢となり町長も自派の荒川友重氏であるところから町會の決議は自由であり自治体として戦ふ強味があり、今後の對立抗争は文字通り銳角的とな

るものゝ如くその成行は各方面から頗る重大視されるに至つた右につき關係者は次ぎの如く語つてゐる（寫真は同ゴルフ場の一部〔略〕）

根本石神村有志 この件につき山本總務部長の話とあつて四日水戸で風戸農銀支配人竹内水濱専務と會見したが久慈町では總務部長が警察管區移管問題や太田高女校の寄附金問題で呼出しては威壓的態度に出たといふので非常に憤慨してゐるから現在のところでは圓滿解決は頗る困難だと思ふ

宇佐美（松） 久慈町議 町會の決議を無視して前町長等と日製が自治体の権利を蹂躪するのは許すべからざるところである、我等は町民の代表である限り町と町長の利益の擁護のために相手を選ばず飽迄戦ふ覺悟である

一九三七年六月九日付

ゴルフ場纏れ突る 土地売買問題不調

【太田支局】日立製作所ではゴルフ場内の不賣地主山形千吉所有の畑五畝二十四歩中に耕作してゐた麥作を昨年無断で踏みつぶしゴルフリンクとした損害賠償事件は太田區で審理中でその實地檢證城野判事、丹藤書記、關、橋本兩辨護士立會の下に七日行はれる筈のところ證人水戸市請負業阿久井卯平氏の不参加のため二十二日に延期となつたが一方久慈町々議三代子之松氏の土地は賣買交渉中を三代氏の強硬なる態度で遂に不調に終るものゝ如く觀られ従つて二十萬圓の巨費を投じたゴルフ場異變は益々深刻化し日立製作所對久慈町の抗争はいよいよ尖锐なる對立となり日製側は憂色増すばかりでこの成行は各方面から頗る注目されるに至つた三代久慈町議は語る

私は久慈町一萬町民の利益擁護と伸張のために飽くまで戦ふ覺悟である

一九三七年九月九日付

祈願祭行列を阻止し 日立ゴルフ非難さる 不快な存在だと排撃協議

久慈町有志は常磐線大甕駅レール際に設置された日立ゴルフ俱樂部に對し日支事變で國民が銃後運動に熱誠を傾けてゐる際ゴルフ遊戯を行ひつゝある有閑人の群が列車の通過する直前においてながら綺羅びやかな服装で遊び戯れ非國民振りを示しつゝあるは不愉快であるとして寄々協議中であつたが、このほど久慈町一萬町民のうち一戸一名が參加して大甕神社へ武運長久の祈禱祭のためこのゴルフ場内の參宮道路を行列通過したところゴルフア―は遊戯の邪魔になると通行を一時中止させた事から果然排撃の空氣を齎し近く出縣陳情し聯隊區司令部へも陳情するといきまいてをり成行は重視されてゐる右に就いて太田署特高係は曩に太田町東町大金持大田猿（假名）の非國民的非難のあつた折柄として頗る重視し警戒中

で久慈町議五來新五衛門氏は語る

あの様な時代認識のない輩が居るから思想は悪化するのである。國民こぞつて熱誠感激してゐる際これを見ぬ振したり遊戯の邪魔になると祈願に参加する町民大衆の行進を阻止するとは奇怪至極の行動だ。學校長や公官署の人々も呆れたので、近く適宜な方法で矯正する覺悟です

一九三七年十月十二日付

大甕ゴルフ場敷地 買取問題に暗影 日製と地主側・對立深刻化

（既報）日立製作所が工場建設を口實として三年前久慈町へ觸角を伸ばし大甕驛レール際にそつて工場建設敷地として同町耕作地の四分の一たる六十町歩（二十餘萬坪）を

反當り 百九十五圓乃至二百圓でこれを買取したが耕作者は工場が建設されるなら町發展のためと涙を吞んで父祖傳來の土地を二百圓の格安で離した

處が豈圖らんや日製側では工場建設の口實を無にして有閑人の遊戯場たるゴルフ場を建設してしまつたので日製側の口車に乗つてうかうか耕地を安價で手離した農民は

憤慨し 日製を相手に三年間抗争を續けて來たわけであるがこの間ゴルフ場出現を豫期してゐた石神村有志根本秀之介氏水戸市仲町弁護士増田弘兩氏は不賣地主から一町五反歩を反當り四百圓（合計六千圓）で買取りその後増田氏側で訴訟まで起して争つた結果三年後の今日において増田氏所有土地が一萬三千圓とすばらしい高値にせり上がったので、遂に

久慈町 と日製との間に鋭角的對立を起すに至り、縣民注視の的となつてゐる、元地主側では過般來から度々協議中の處去る九日同町元漁業組合長渡邊吉郎平氏外十一名の調査委員を擧げて日製に反當り二百圓を以て土地買戻しの要求をしたが、日製ではこの要望を拒絶したので憤慨した元地主側は來

る十五日午前十時から同町

小學校 に地主大會を開き縣並に農林省その他關係各省に要求貫徹のため陳情することに決定した、この問題は一時流血の惨事さへも惹起されたこともあるためその成り行きは頗る懸念されてゐるが、時節柄農村に對して援助的に出でざる日製側の態度は恰も支那式精神が横溢してゐるやうだとその非難の聲がたかまつてゐる

一九三七年十月十三日付

ゴルフ場舊地主連 反對運動熾

烈化 けふ久慈校で地主大會

（既報）久慈町ゴルフ場問題に關して今十三日午後一時から久慈町小學校で行はれる同町舊地主大會は同町前漁業組合長渡邊吉郎平氏座長となり大字行戸飛田重太郎、渡邊巳之太郎、本町五來瀬平、佐藤幸三郎、泉町荒川利三郎、同正、三代萬吉、南町額賀淺次郎、根本松太郎、新宿渡邊善八、田所午吉、荒川豊、大甕出野龜一の各有志が委員

に選ばれその他町議外關係者十五名の委員を選びこれ等代表者が三百名の舊地主代表として縣當局、憲兵隊その他を歴訪して種種陳情運動を行ひ陸軍、内務、農林各省へも陳情を行ふものゝ如くその成行は注目されてゐる

一九三七年十月十四日付

ゴルフリンク問題 委員を追加し抗争 排斥期成同盟會も結成

久慈町ゴルフリンク問題に關して端しなくも日製側と抗争を捲き起した同町舊地主大會は十三日午後三時から同町小學校に開かれ約七十名出席前漁業組合長渡邊吉郎平氏座長となり協議を行つたが〇〇〇〇「伏宅」發生のため参加者少數のため既報の委員十三名の外に新に左記委員十名を選び來る十七、八両日委員會を開き具體的な抗争方針を決定することになった、なほ委員中川崎、五來、田所、渡邊、三代、山形の六氏は町議でこれ等各町議は同志に働きかけ近くゴルフリンク排斥期成同盟

會なるものを結成しあくまで日製側の反省をうながす筈でその成行は頗る注目されてゐる

川崎實之介、五來民藏、田所啓之介、飛田朝吉、額賀利平、青山鶴松、渡邊藤重、三代利七、山形季次、大内力太郎

一九三七年十月二十一日付

製作所の出様如何で 紛争さら
に激化せん 再燃のゴルフ場問題

既報、一時落着せるかに見えた久慈町郊外大甕ゴルフ場問題は最近に至りて紛争再燃し久慈町有志對日立製作所の正面衝突を憂慮されてゐるが二十日隣村久慈郡坂本村出身の政友會所属川崎巳之太郎代議士は久慈町有志渡邊吉郎平外十數名を引率出縣し今松總務部長に面接問題の経過を説明陳情する處あつた同問題は曩に民政黨所属中井川代議士の調停失敗以來、悪質ブローカー跳梁を極めをる現状にてこれが對策に

つき數日前山本製作所總務部長が出縣高橋特高課長と鳩首協議せる模様であり製作所側の出様に依つては再び紛争激化するものと見られてゐる

一九三七年十一月四日付

時勢に目覺めた地主 土地賣却
を申出づ 日製工場擴張好轉す

躍進の一途をたどつてゐる日立製作所では工場擴張のため隣接河河原子町に六十四町歩、同國分村に五十一町歩の土地を買収すべく交渉中であつたが二、三地主との間に買収價格が折合はず、さる八月十日以來中絶の形となり製作所側では止むなく東京府下亀有に土地を買収着々工場建設中であるがその後河原子、國分兩町村の地主は本縣の發展が工場誘致に負ふところ多く製作所の擴張は取りも直さず本縣の發展であることに目覺め進んで所有地の賣却を希望し林知事に斡旋方を申入れるに至つたので製作所側でも本月末までに地主の意向が纏まる限り交渉再開を應諾

することになつた。この買収交渉が成立すれば製作所では直に工場建設に着手する手筈なので日立、助川兩町と共に、大々工場地帯が出現し國防上絶対の必要を認められてゐる大甕ゴルフ場の重要性もいよいよ増大するわけで注目される、かくて社長鮎川義介氏が日滿經濟統制會社（假稱）社長に就任し吾が工業會に覇を唱へるに至つた日立製作所の躍進は近來殊に著るしいものがある

一九三八年二月十七日付

素晴らしい南進策 國分河原子
の合併促進

この日製の飛躍的發展はやがて南多賀、東久慈にかけて物凄い一大工場都市實現へと拍車をかけ國分村河河原子町は早くも合併の氣漲り工場完成後は優に人口十萬を越える大都市となり日立助川に一足先に市制を布くものと見られるに至つた日立製作所ではその後第三弾の大擴張を極秘裡に考究中の模様で

その計画こそは久慈漁港を一躍世界的の商港化たらしめ五千トン級以上の船舶の出入を可能ならしめんとするものであるが

久慈港は□頃内務省の専門技術者が調査した結果、現在海底にある點石が自然の恩恵で港湾計畫に頗る好條件を具備してゐる旨を發表した而して現在の防波堤の距離は二キロ半で大馬蹄形の隆起状態を呈してをりこれだけの工事を今日人工をもつて施行すれば数百万円の巨費を必要とするといはれ常磐海岸唯一の天恵箇所と折紙を附したものである

従つて世界に羽翼を張り伸ばしつつある日産は以前から見逃してはおらなかつた筈でこの計畫が実現される前後にはあの大甕原の日立ゴルフリンクスの二十萬坪餘の廣い土地も工場敷地に模様へされると見られてゐる「以下略」

制作 2017年3月30日

改訂 2017年7月2日

日立市の歴史点描

<http://saki-archives.com>
hc_museum03@yahoo.co.jp
